

カニモリ *Rhinoclavis kochi* (Philippi)

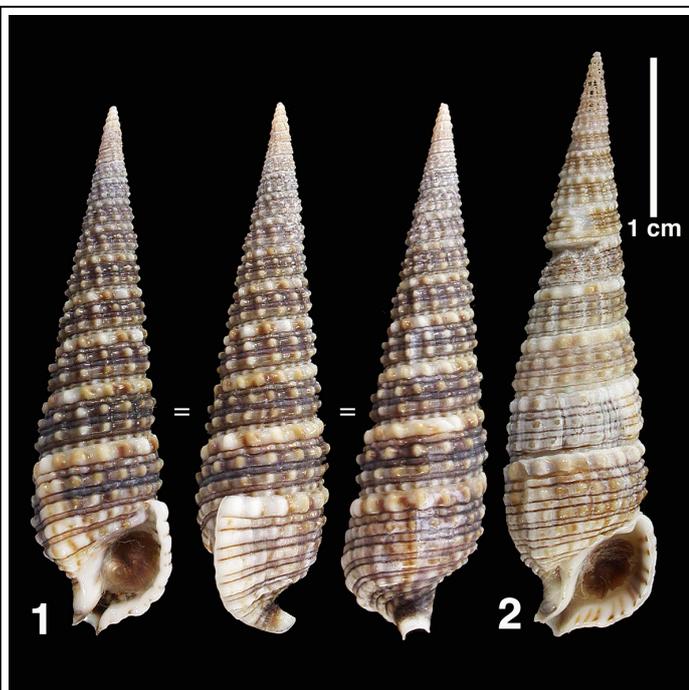
【選定理由】

本種は内湾の潮下帯の砂泥地にすむ。内湾域の潮下帯の環境は急速に悪化して、この生息帯の貝類相が著しく単純化している。本種は、かつては多産する普通種であったが(愛知県科学教育センター, 1967)、1990–2000年にかけて著しく生貝の個体数が減少し、新しい死殻は見られるが、生貝が確認できない期間があった。

2006, 2007年に知多半島先端部の数地点で行ったドレッジ調査の結果、健全な個体群を確認し、その後の調査でも外洋水の影響が強い、泥分の少ない砂底では健全な個体群が確認されるようになった。このような回復傾向が認められたので前回(VU)よりランクダウンするべき種と評価された。本種は有機質の少ない砂底の指標種として、モニタリングをすることは重要である。

【形態】

殻長約 40 mm の塔型の貝で、殻頂部は鋭くとがる。殻口は肥厚し、水管は背部へそる。



1: 田原市伊良湖町伊良湖漁港, 2016年10月8日, 2: 南知多町内海沖 (ドレッジ水深15 m), 2001年7月31日, 木村昭一採集

【分布の概要】

【県内の分布】

三河湾湾口部では1994年頃には水深1 mほどの砂底で非常に新鮮な死殻が多数見られたが、すでに生貝が採集できなかった(木村, 1995, 1996)。1998年からの調査では新鮮な死殻もほとんど採集されず(木村, 2000)、2001年のドレッジ調査で知多半島内海沖の水深15 mの砂泥底より生貝3個体が採集された。2006, 2007年における同所のドレッジ調査の結果、健全な個体群を確認した。近年では伊良湖漁港周辺でも健全な個体群が確認されている(木村, 2017)。

【世界及び国内の分布】

日本、インド、西太平洋。国内では房総半島から九州まで分布する。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したように県内では10年間以上生貝が確認できなくなるほど減少したが、近年明らかな回復傾向が認められる。

【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【特記事項】

葉山しおさい博物館(2001)では相模湾の個体群が消滅寸前にランクされていたが、近年著しい回復傾向が確認されている(河辺, 2010; 木村, 2005及び未発表資料)。

【引用文献】

- 愛知県科学教育センター, 1967. 愛知の動物. 222pp.  
葉山しおさい博物館, 2001. 相模湾レッドデータ 貝類, 104pp.  
千葉県, 2000. 千葉県の保護上重要な野生生物 千葉県レッドデータブック動物編. 438pp.  
河辺訓受, 2010. 神奈川県逗子海岸の貝類相. かきつばた, (35): 1–16.  
木村昭一, 1995. 日間賀島南部海岸の潮間帯付近の軟体動物相. 研究彙報(第34報): 16–27. 全国高等学校水産教育研究会.  
木村昭一, 1996. ドレッジによって採集された日間賀島南部海域の底生動物. 研究彙報(第35報): 3–19. 全国高等学校水産教育研究会.  
木村昭一, 2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類(予報). かきつばた, (26): 18–20.  
木村昭一, 2005. 逗子海岸で大量に打ち上げられたカニモリガイの生貝. かきつばた, (31): 41.  
木村昭一, 2017. 伊良湖漁港内で採集された貝類. かきつばた, (42): 6–12.

(木村昭一)